

2019 年度秋学期研究者交流支援制度招聘プログラム実施報告書

商学部専任教授 松原有里

招聘者: Prof. Jerome Monsenego, Professor of tax law, Stockholm University

所属機関: Faculty of Law, Stockholm University, Sweden

招聘期間: 2019 年 11 月 18 日～12 月 6 日

ジェローム・モンセネゴ教授は、フランス出身でスウェーデンの大学で教鞭をとる気鋭の国際租税法学者（仏とスウェーデンの二重国籍保持者）であり、自らのバックグラウンドも相まって、国際的二重課税とりわけ移転価格税制や EU 租税法の研究に関しては、欧州の若手・中堅の第一人者である。昨今、移転価格税制をめぐる国際課税が経済のデジタル化を期に世界的に大きく変わりつつあることから、移転価格税制とデジタル課税を中心に共同研究および本学で英語の講義・講演をする目的で招聘を行った。

今回の同教授の招聘は大きく分けて、3つの柱で進めた。第一に、共同研究の手掛かりとしてモンセネゴ教授と日本の実務家・研究者へのインタビューの手助けを行い、それをもとに日欧の国際課税に対する意識の違いを認識してもらった。第二に、その前提を踏まえて、和泉校舎で本学の学部学生向け（日本人・留学生の混成クラス 約 30 名）に国際課税に関する講義を英語で行ってもらった（2019 年 11 月 27 日実施）。第三に、今回の研究滞在の総仕上げとして、社会人の実務家・研究者（プロ）向けに駿河台キャンパスにてコロキウム方式（出席者約 20 名）で EU のデジタル課税についての最近の状況について英語で講演していただいた（2019 年 12 月 3 日実施）。後者は出席者のフィードバックも好評で、現在、英語のテープ起こし・原稿の翻訳作業を行っている処である。なお、当日出席できなかった方向けに、近日中に市販の媒体に講演録の内容に脚注等を加筆したものを日本語訳で掲載する予定で 12 月 10 日現在、出版社と調整をしている。最後に、招聘者としては、これを機会に、本学とストックホルム大学との学術・学生交流が、一層進展することを期待している。

